

2011年度JICA青年研修 「中央アジア・コーカサス混成農村振興」コース

対象国：カザフスタン、キルギス
タジキスタン、トルクメニスタン



研修員数：19名

研修期間：2011年10月12日（水）～

2011年10月29日（金） 18日間



平成22年度に続き平成23年度も「中央アジア」の4ヶ国から19名の青年が、十勝で農業分野における幅広い範囲の研修を行いました。

旧ソ連体制の崩壊後、自由経済へ移行し、各国が直面している課題が多く存在する中、課題に対するヒントを得るため、講義のみならず、自分の目で確認できるような視察、意見交換を研修内容に取り入れました。日本の農業全体を知っていただくため、基本的な



知識として、中央政府と地方政府の仕組みを理解していただき、同世代の大規模農家さんの視察及び意見交換、寒冷地における農業技術と普及法、農産品調整工場事例、農協の概要及び役割を説明し、研修員の国の状況に合わせて、課題分析ワークショップを行いました。また、農村振興における重要な役割を果たした農村女性の活動及び事例紹介、畜産品の加工事例、ワインの製造によるまちづくりを学びました。地域理解として、十勝管内の町村のご協力により、地方の町の状況を知ることもできました。

短い研修期間の中で、幅広く伝えるため、前回の中央アジアコースと同様、対象地域の課題とも一致する「農業の6次産業化」も取り入れました。零細農家を組織化することにより、農家の力や農産物の付加価値をつけ、さらに行政からの支援を加えて、地域の特徴を反映した農村振興の取り組みについて研修員の認識ができました。

研修最終日には、帰国後に研修で学んだものを自分の仕事の中で如何に活用するかをまとめたレポートを発表しました。発表では、既存の農業者の団体を、農民の利益を代表する「農協」として整備することや、いままで放置している農地の有効利用について、具体的な方法が挙がりました。それに対して、講師からのアドバイスもありました。



休日の茶道体験では、お茶をおかわりしている研修員がたくさんいました。中央アジアは内陸地域に位置しているため、研修員は、研修終了後に初めて見た太平洋を満喫している様子でした。

青年研修は十勝管内において、各町村はじめ、皆様のご協力によるものであります。あらためてご協力いただきました皆様にお礼を申し上げます。今後も十勝インターナショナル協会は帰国研修員のサポートを行っていきたいと思います。引き続き、皆様の御協力をお願いいたします。

☆☆☆☆御協力いただいた講師・関係者の皆様（敬称略・順不同）☆☆☆☆

帯広市農政部 米倉進コースリーダー、帯広百年記念館、帯広市農政課、帯広市農業振興公社、斉藤農場、帯広市川西農協 西帯広事業所、おびひろの味銀行、高橋美巴子、池田ブドウ・ブドウ酒研究所、農事組合法共働学舎新得農場、有限会社夢がいっぱい牧場、大樹町、裏千家淡交会帯広支部

～～～どうもありがとうございました～～～